



ティンさんが働く「有料老人ホーム マリンピア 与次郎」。桜島と錦江湾を目前に臨む絶好のロケーションは、施設利用者の心の癒しにもつながっている。

私達は外国人材の活用を進めています



○有限会社ライフサポート

有限会社ライフサポートは、鹿児島市を中心に高齢者福祉事業を展開しており、特別養護老人ホームやグループホームを運営しています。

Q.外国人職員を採用するようになったきっかけを教えてください

職員の高齢化が進み、数年後には施設運営が厳しくなることが予想されました。ただ、新しい職員を確保しようと募集をかけましたが、若年層の確保も難しく……。そんなときに「特定技能制度」を知り、現地視察の機会にも恵まれました。人手不足の解消と職場の若返りを目的に、外国人介護職員の採用を決定。現在は4名の特定技能人材を受け入れていて、今後も技能実習生と特定技能人材の入職を予定しています。

Q.実際に外国人職員を採用してみて感じたことは

正直、利用者の方が外国人職員を受け入れられるのか不安でしたが、振る舞いや声掛けなどの接し方を通して、私たちが想像していたより早く受け入れてくれたので安心しました。言葉の壁はあるものの伝え方を工夫することで、いくらでもコミュニケーションはとれますし、文化や習慣、価値観の違いを理解・尊重して教え合える職場を作っていければ、日本人も外国人も関係ないのだとわかりました。外国人材の活用は、私たち自身が仕事への理解度をより深める機会にもなっています。

Q.働きやすい環境づくりとして、どんなことを心がけていますか

知らない土地で働くことは想像以上に心細いはず。そのため、プライベートな部分でのサポートも大切にしています。例えば、できるだけ不自由なく生活をスタートできるように家電付きの寮を完備したり、ごみの捨て方のアドバイスや食材の買い出しに付き添ったり、職員同士の交流イベントを企画したり。生活面の支援が現場での円滑な就労や地域への定着につながると思います。

Q.外国人材の活用を検討している事業所へアドバイスをお願いします

就労ビザは申請後、発給までに時間がかかりますし、寮などの住まいを確保するのも簡単ではありません。人材不足が想定される場合は、早めの行動が大切です。そして、外国人材と一緒に働く大切な仲間。文化の違いを理解するのはもちろんのこと、企業と外国人労働者の互いの将来設計も考える必要があります。



地域連携室室長の佃 恵里さん。「外国人職員の存在は、日本人職員にとっても良い刺激になるなど、間違いなく当社にとってプラスになりました。これからも特定技能制度を使って外国人の方々を受け入れていきたいです」



身振り手振りを交えて施設利用者とのコミュニケーションをとる特定技能1号のティンさん。「職員の皆さんも近隣の住民も優しく、鹿児島が気に入りました。介護の仕事は大変なこともありますが、利用者の方々のお世話をするのはとても楽しいです」